

2

アフガニスタン

アジアとヨーロッパを結ぶシルクロードの拠点であり、東西文明の十字路として栄えたアフガニスタン。多彩な文化が混ざり発展したこの地には多くの遺跡や遺物が残っています。

貴重な文化財の多くは国立博物館に所蔵されていましたが、1989年、旧ソ連軍が撤退した後の内戦下で略奪されたり、2001年のタリバン政権（当時）によるバーミヤンの大仏の破壊などをきっかけに世界中へ文化財の流出が続ききました。

その惨状に心を痛めた故・平山郁夫（日本画家・東京藝術大学元学長）は、アフガニスタンから流出した文化財を「文化財難民」として保護、必要な場合は修理し、設置された「流出文化財保護日本委員会」にて安全に管理を行ってきました。そして、2016年、不法に持ち出され日本で保護されていた流出文化財計102点は、アフガニスタン政府へ正式に返還されました。

第2章では、返還された流出文化財の中から、バーミヤン遺跡の石窟の壁画断片や、アフガニスタン北部のアイ・ハヌム遺跡から出土した《ゼウス神像の左足》などのクローン文化財および想定復元されたスーパークローン文化財をご覧ください。

さらに、破壊されたバーミヤン東大仏の天井を飾った《天翔る太陽神》の復元に挑んだ東京藝術大学の取り組みを紹介、復元の一部を公開いたします。



バーミヤン渓谷 (2016年撮影)